

---

2022年度  
2022年3月発行

---

大学院研究科横断副専攻プログラム

「Comm 5.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム」

# 履修要項

# Comm 5.0

同志社大学

# 目次

I. <u>養成する人物</u> .....	2
II. <u>プログラムの履修</u> .....	2
1. プログラムの履修資格 .....	2
III. <u>プログラムの特色</u> .....	3
プログラム編成・実施方針.....	3
IV. <u>プログラムの全体像</u> .....	5
1. 履修体系 .....	5
2. 科目群.....	6
V. <u>プログラム修了要件</u> .....	8
1. 修了必要単位.....	8
2. 外部試験 .....	8
3. 論文投稿・学会発表 .....	9
4. 修了判定 .....	9
5. 科目履修例.....	9
VI. <u>科目の履修</u> .....	11
1. 科目登録、試験、成績.....	11
2. 2022年度 開講科目一覧表.....	12
同志社大学大学院研究科横断副専攻プログラム「Comm 5.0-AI・データサイ エンス副専攻プログラム」に関する内規.....	15

# I. 養成する人物

## 人材養成目的

Comm 5.0は、CommunicationとCommunityの有機的な融合的動態という社会のあり方を指しています。次世代社会においては、ヒトとヒト、ヒトとモノ（技術やシステム）が十分に相互作用し、信頼と安全性の確保のもとに、多様な価値、イノベーション、ヒトのwell-beingを作り上げていくことが重要であり、ヒトとヒト、ヒトとモノの関係に介在していた分断を取り払う、CommunicationとCommunityの連続的な創造的運動を、私たちは、模索していかなければなりません。本プログラムでは、AIおよびデータサイエンスの先端的情報工学技術を用いて、Comm 5.0の構築に取り組むことができるComm 5.0アーキテクトの養成を目的としています。

## II. プログラムの履修

### 1. プログラムの履修資格

本プログラムは、本学大学院博士課程の前期課程・後期課程に所属する学生の皆さんに履修資格があります。

2022年度は、以下の研究科・専攻に所属する学生を対象とします。

生命医科学研究科医工学・医情報学専攻	文化情報学研究科文化情報学専攻
理工学研究科情報工学専攻、応用化学専攻	
法学研究科政治学専攻、私法学専攻、公法学専攻	総合政策科学研究科総合政策科学専攻
心理学研究科心理学専攻	スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻

本プログラムで修得した単位の一部は、他研究科・専攻科目同等の扱いとなり、自身の所属する研究科の課程修了単位に算入できる場合があります。課程修了単位に算入する場合は、自身の所属する研究科の履修要項で可能な単位数等を確認して履修計画を立ててください。

※前期課程2年次生または後期課程2年次生・3年次生からの履修も可能です。

※本プログラムの履修を希望する学生は、所定の「履修志願書兼指導教員同意書」及び「履修計画書」に必要事項を記入し、所属研究科の指導教員の同意を得た上で、後述する期日と方法により提出してください。

※法学研究科政治学専攻・私法学専攻・公法学専攻、総合政策科学研究科総合政策科学専攻、心理学研究科心理学専攻、スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻の学生は、本プログラムのプログラム・コーディネーターに相談の上、「履修志願書兼指導教員同意書」及び「履修計画書」を提出してください。

※本プログラムの修了が不可能または修了を目指さない場合でも、本プログラム科目の履修を希望する場合は、「履修志願書兼指導教員同意書」及び「履修計画書」を提出してください。

## 2. 「履修志願書兼指導教員同意書」及び「履修計画書」提出の期日と方法

提出書類：履修志願書兼指導教員同意書（所定様式）

履修計画書（所定様式）

取得方法：提出書類の様式は、同志社大学 学びのかたちの新展開（高等研究教育院）ホームページ

「Comm 5.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム」のページに掲載します。

下記 URL より各自ダウンロードしてください。

ホームページ URL: <https://next.doshisha.ac.jp/comm/application.html>

提出期日：2022年3月14日（月）9時～2022年3月28日（月）17時

提出方法：所定様式に必要事項を記入し、指導教員の同意を得たものを、PDF ファイルにして

下記のメールアドレスに送達してください。

宛先メールアドレス：[ji-ktken@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-ktken@mail.doshisha.ac.jp)

提出書類・提出方法に不明な点がある場合は、高等研究教育院事務室にお問い合わせください。

高等研究教育院事務室 TEL：075-251-3259 Mail：[ji-ktken@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-ktken@mail.doshisha.ac.jp)

※履修の可否は、一般登録期間前日までに、大学が付与するメールアドレス宛に連絡します。履修の可否を確認の上、科目登録を行うようにしてください。

※提出書類の記入に関して、2022年度の大学院新入学生は、学生 ID の欄を空欄としてください。また、学生 ID 以外の記入内容に変更が生じた場合は、4月3日（日）までに書類を再提出してください。

## Ⅲ. プログラムの特色

### 1. プログラム編成・実施方針

本プログラムでは、次代の社会を先導する人物を養成するために、次に掲げる能力を総合的・統合的に涵養する教育課程を編成する。

#### 知識・技能

AI、IoT、ビッグデータ、データサイエンス等の先端的情報工学の知識・技能を習得する。また、ヒトに関するデータ取得や利用、もしくは、社会におけるコミュニティ構築のためのデータ取得や利用に関する知識を習得する。実験や実習を中心に行うことで、実践的な知識・技術の獲得を目指す。

#### 思考力・判断力・表現力

文理融合的な視点で未来の技術の活用方法を考察する能力を習得する。今後出現すると予想される未来技術について議論し、来るべき社会のあり方をアクティブラーニングによる演習を中心に考察する。

#### 主体性・多様性・協働性

プログラム担当教員とプログラムの連携機関が密接に連携して行う共同研究を学生の鍛錬の場として設計する科目を開発し、主体的に研究を進める中で、今後の社会動向やニーズを自ら考える能力を涵養する。

## 1 ヒトとヒト、ヒトとモノを繋ぐ ～Comm 5.0～

現在の大量生産、大量消費型のグローバル社会においては、ヒトとモノ（技術やシステム）の分断やヒトとヒトの分断などあらゆる階層で分断が進行している。しかしながら、来たるべき AI・データサイエンスの時代においては、ヒトとヒトとの間に深くモノが入り込み一つのシステムを構成するため、そこではもはやヒトとモノとの分断は想定できず、ヒトとモノとの新たな共生の在り方を模索していく必要がある。この課題を解決すべく、我が国では、Society5.0 一人間中心の社会—を提案し、その実現に向けた努力がなされている。本学では Society5.0 を実現する上で最も重要な要素である「分断の解消」を目的とし、「新たな Communication の在り方と Community の形成」（以下 Comm 5.0）が重要であると認識している。

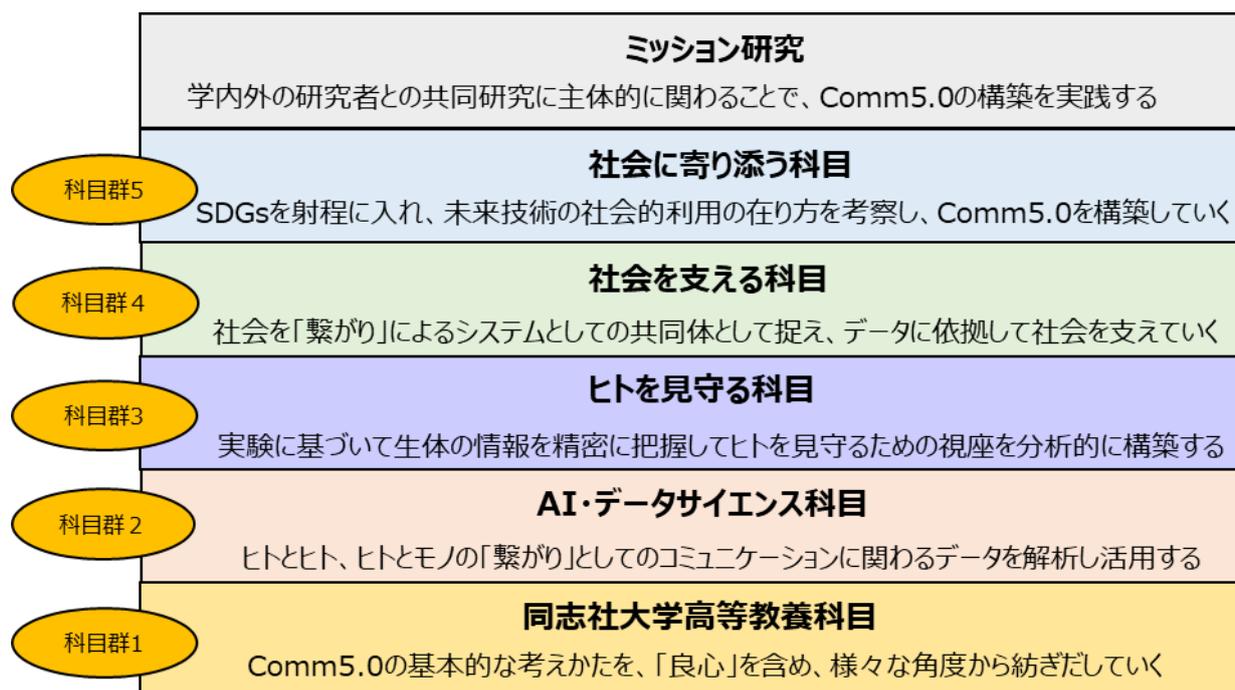
## 2 Comm 5.0 プログラムが養成する人物像

Comm 5.0 プログラムでは Comm 5.0 の創造に必要不可欠な以下に示す 3 つの能力を有する次代の社会を先導する人物を養成するものである。すなわち、

- 1) ヒトとモノとを分断的に捉えるのではなく、それらの共生を支える結びつきに目を向けることができ、
- 2) ヒトとヒトおよびヒトとモノから構成されるシステムの中で起こるコミュニケーションを熟慮することができ、
- 3) AI・データサイエンスの素養を持ち、ヒトを精緻に把握し、ヒトの情報の取得方法について高度な知識と技術を有し、1)～3)を総合的・統一的に運用できる人物である。

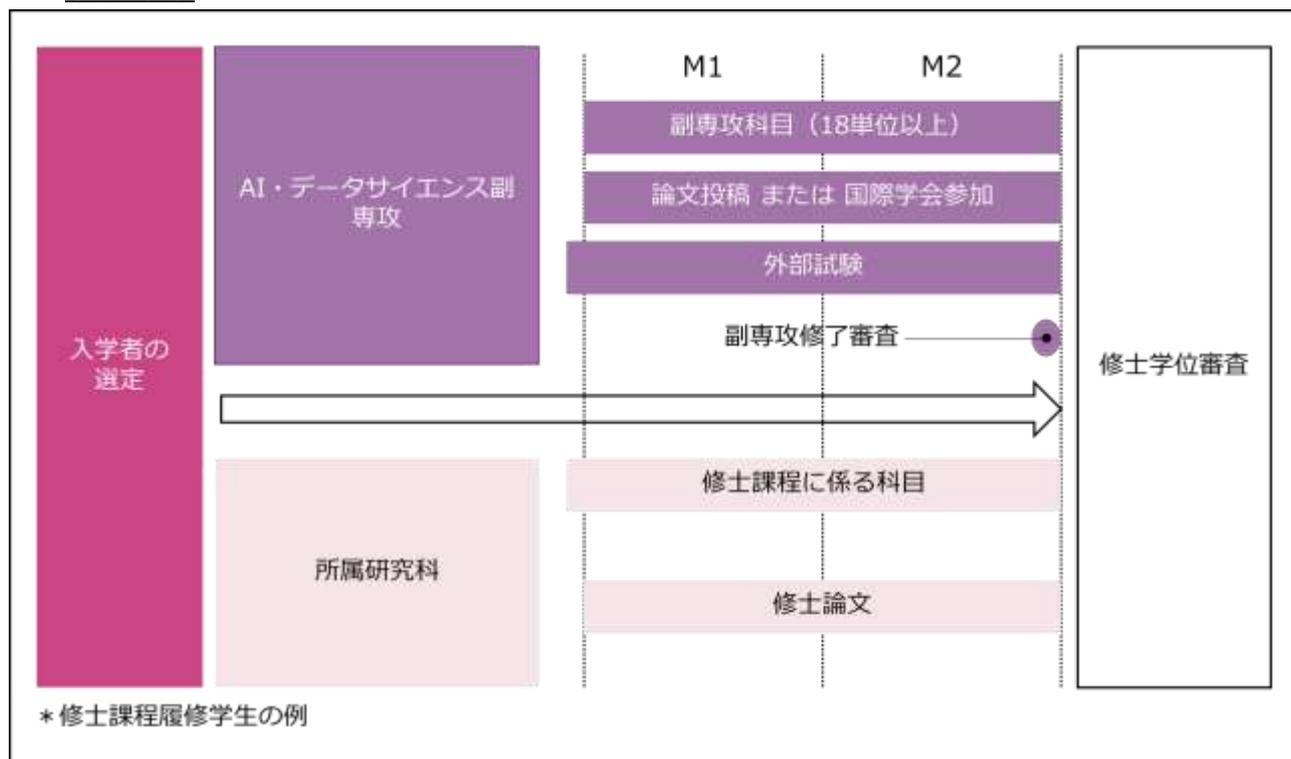
## 3 5つの科目群とミッション研究による知のプロフェッショナルの育成

2 に示す Comm 5.0 プログラムにおいて考慮する社会的課題を解決する人物が持つべき 3 つの能力を養うために、本副専攻では下図に示すような 5 つの科目群を設置し、それらに対応する各科目を提供する。また、科目群で得た知識と技術の体系化及び実践を目的としてミッション研究を行う。



## IV. プログラムの全体像

### 1. 履修体系



本プログラムは、所属研究科・専攻の教育課程で学位取得を目指しながら、所属研究科の研究のみでは獲得できない知識を習得し、視座を広げるための教育プログラムです。講義系科目、演習・実習系科目、関連教員および連携組織と共同で行うミッション研究を計画的に履修するようにしてください。プログラムの履修にあたって、科目登録の前に履修面談を実施することがあります。

本プログラムでは、科目群として「同志社大学高等教養科目」「AI・データサイエンス科目」「ヒトを見守る科目」「社会を支える科目」「社会に寄り添う科目」「ミッション研究」に分けられており、各科目群に必要な修得単位数が設けられています。

## 2. 科目群

本プログラムは、科目群を設定し、科目群ごとにポリシーを設定しています。履修生は、ポリシーを理解し、修得すべき知識・技術を意識しながら、履修してください。

### 1 同志社大学高等教養科目

「同志社大学高等教養科目」群では、高等教育に必要な基礎的な知識や技能を獲得する科目を設置する。論文の作成などの技法を学ぶだけでなく、ヒトとして自分を振り返り科学的に示唆を得る手法を獲得する。また、ヒトとヒト、ヒトとモノ（技術やシステム）を相互に作用させるうえで必要となる基本的な考え方を、Comm 5.0 の見地から文理融合的な手法で学び、同志社大学のミッションの一つであるキリスト教主義に立脚した「良心」についても科学的に思考する手法の獲得を狙う。

【科目】  
Comm 5.0 基礎知識論  
Comm 5.0 文理融合論  
科学と良心  
心理環境科学特論  
セルフアウェアネス  
(コーチング入門)  
論文リテラシー

### 2 AI・データサイエンス科目

「AI・データサイエンス科目」群では、プログラミング・アルゴリズム・統計解析等のAI・データサイエンスの基盤となる内容を多様な学修形式を介して提供することで、それらの基盤知識・技術を有し、目的に応じて利活用できる人物を養成する。

【科目】  
統計基礎  
プログラミング基礎  
アルゴリズム基礎  
データベース基礎  
多変量解析特別演習  
ベイズ統計学特論

### 3 ヒトを見守る科目

「ヒトを見守る科目」群では、ヒト由来の多様な情報の取得・処理技術を実験や実習を通して学ぶことで、実践的なヒトに関する知識、ヒトの生体情報を取得および処理する知識・技術を有する人物を養成する。

【科目】  
ヒト脳機能計測実験 I・II  
動物行動神経計測実験 I、II  
生体化学情報計測実験 I・II

## 4 社会を支える科目

「社会を支える科目」群では、ヒト由来の多様なデータに対する高度なデータ取得法、データハンドリング法およびデータ分析法について学ぶ。ここでは、単なる方法の理解に留まらず、データを通して、ヒトの営む実社会の課題を探り、その解決に向けた手段を提供できる知識・技能を有する人物を養成する。

**【科目】**  
複雑データ解析 I・II  
質的データ解析 I・II  
高次元統計学 I・II  
マルチメディアデータベース I・II  
マテリアルズ・インフォマティクス I・II  
モビリティネットワークシステム I・II  
常識的共生知能システム I・II  
知的自然言語処理 I・II  
高信頼ネットワーク I・II

## 5 社会に寄り添う科目

「社会に寄り添う科目」群では、アクティブラーニングによる演習や実習等を介して、未来の技術を社会でどのように活用するかを考察する技術・知識を有する人物の養成を目的とする。

**【科目】**  
Comm 5.0 特別講義  
フューチャーデザイン演習  
調査法特別演習 I  
SDGs のための知的研究開発手法

## 6 ミッション研究

「ミッション研究」科目群では、学内の卓越した研究者および連携組織との共同研究を学生自らが主体的に進めて行くことで、今後の社会動向やニーズについて自ら考える能力を獲得し、その他の科目群で得られた知識・技術の体系化に加え、社会での活用を可能にする人物を養成する。

**【科目】**  
ミッション研究 I・II

## V. プログラム修了要件

本プログラムを修了する為には、下記に記載する「修了必要単位」「外部試験」「論文投稿・学会発表」の全ての要件を満たす必要があります。

### 1. 修了必要単位

修了必要単位数は、18単位以上とする。ただし、各科目群に必要単位数が設けられています。必修科目の単位を修得し、各科目群に必要となる単位数の修得が必要になります。

科目群	必要単位数
同志社大学高等教養科目	2科目4単位以上
必修科目：Comm 5.0 基礎知識論、Comm 5.0 文理融合論	
AI・データサイエンス科目 または ヒトを見守る科目 または 社会を支える科目	2科目4単位以上
社会に寄り添う科目	1科目2単位以上
必修科目：フューチャーデザイン演習	
ミッション研究	2科目4単位以上
合計	9科目18単位以上

### < 注 意 >

本副専攻プログラムの科目は「高等研究教育院設置科目」であり、修得した単位は、所属研究科の課程修了単位に算入できる場合があります。「高等研究教育院設置科目」の算入上限は、研究科・専攻によって異なりますので、所属研究科の履修要項を確認の上、履修の計画をしてください。

### 2. 外部試験

以下の3つの群について、それぞれ一つ以上の試験に合格またはスコアを取得すること。

1群 TOEIC : 600 点以上、TOEFL iBT : 63 点以上

2群 統計検定2級 あるいは 準1級 あるいは 1級 または 統計検定データサイエンス基礎  
あるいは 発展

3群 応用情報技術者試験 または 基本情報技術者試験 または ディープラーニング G 検  
定 または ディープラーニング E 検定

※外部試験の合格またはスコア取得の都度、「外部試験報告書」（所定様式）とともに証明書類（合格証・スコアカード等をスキャンしPDF化したもの）を高等研究教育院事務室宛に提出してください。

宛先：高等研究教育院事務室

宛先メールアドレス：[ji-ktken@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-ktken@mail.doshisha.ac.jp)

※外部試験1群の語学試験については、提出日から遡って2年以内に取得したスコアを有効とします。

取得日から2年を経たスコアは対象外になります。

※外部試験1群 TOEFL iBT については、1回の試験の Total スコアが 63 点以上を合格とし、試験毎の各項目のベストスコアから算出した My Best スコアは認めないものとします。

### 3. 論文投稿・学会発表

本プログラム履修期間中に、以下の項目についていずれか1回以上行うこと。

#### ・英語論文投稿

査読受付されること。

オープンアーカイブにて公開した後、投稿することが望ましい。

#### ・国際学会発表(アクセプトされること)

アクセプトされ発表すること。

プロシーディングスもしくは原稿にDOIが付いていること。DOIが付いていない場合は、オープンアーカイブにて4ページ相当の内容を公開すること。

※修了する年度の3月1日までに「論文投稿・学会発表報告書」（所定様式）を高等研究教育院事務室にメールにて提出すること。（投稿・発表の都度提出してください。）

※「論文投稿・学会発表報告書」には、論文投稿、学会発表の実績が客観的にわかる書類を添付すること。添付された資料をもとに基準を満たしているかを判定する。

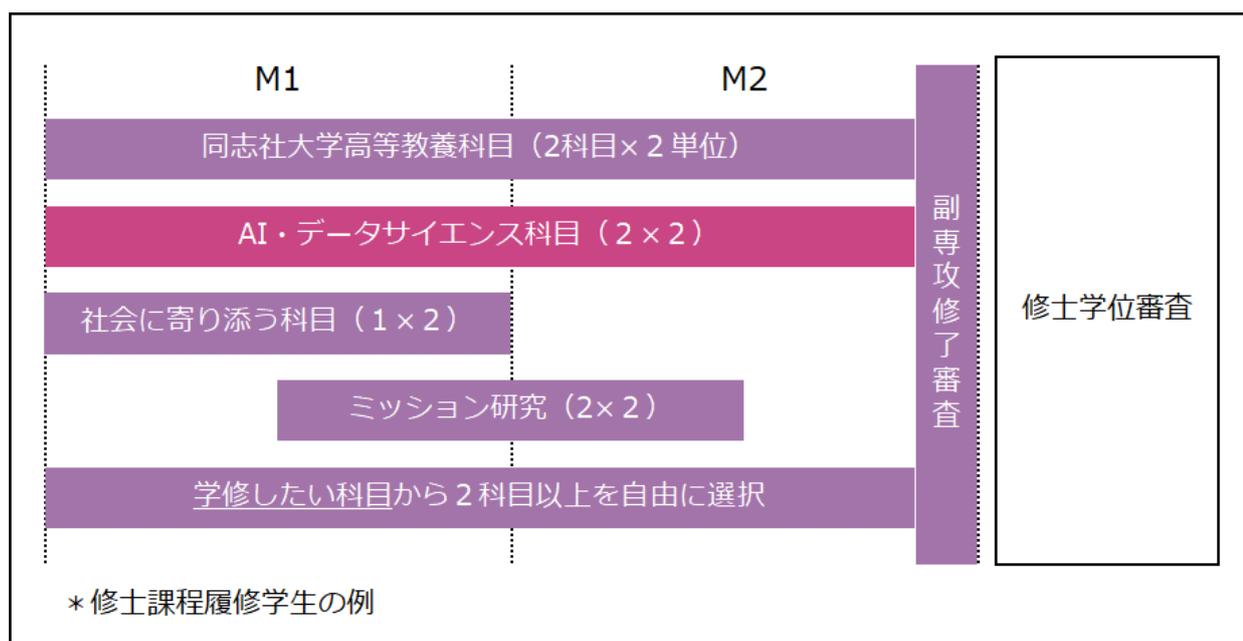
### 4. 修了判定

本プログラムでは、毎年秋学期の採点が終了した段階で、修了要件を満たしているものに対して修了判定を行う。春学期末に所属研究科を修了予定の学生は、7月末日までに高等研究教育院事務室に申し出ること。

### 5. 科目履修例

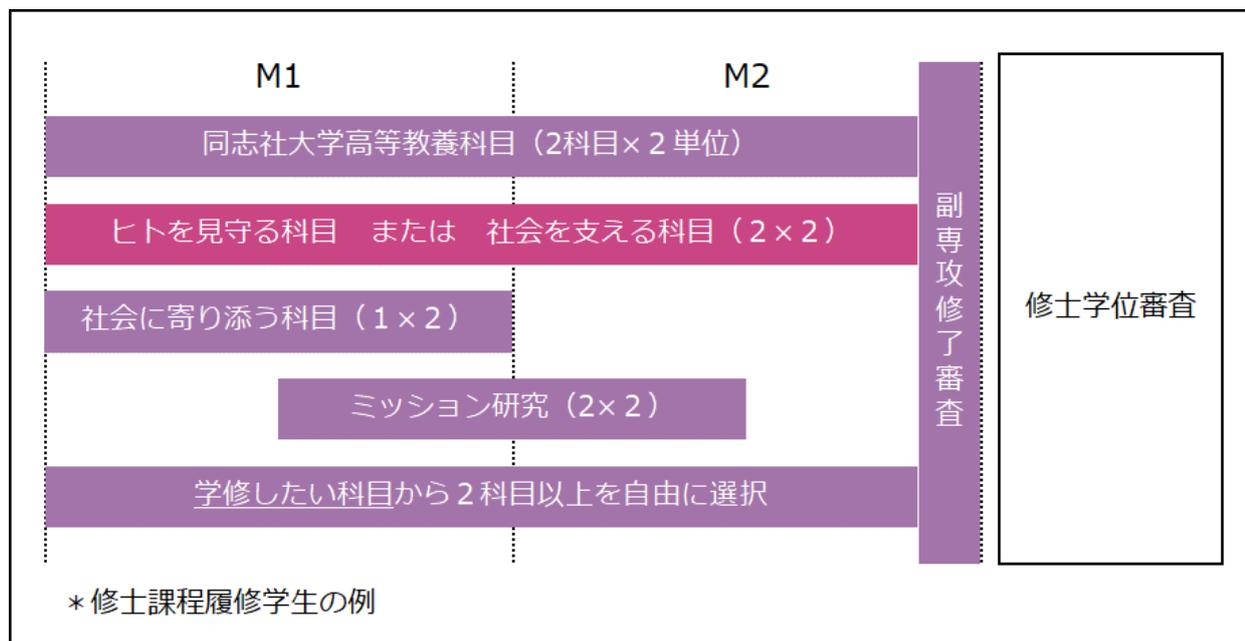
例1. 統計およびプログラミング等の素養をまだ十分に身に付けていない学生の場合

AI・データサイエンス科目、ヒトを見守る科目あるいは社会を支える科目群から定められている必要単位数4単位のみを取得する場合は、AI・データサイエンス科目群から科目を選択することで、AI・データサイエンスに必要な最低限の知識・技術を身に付けることが望ましい。



例2. 統計およびプログラミング等の素養を既に十分に身に付けている学生の場合

AI・データサイエンス科目、ヒトを見守る科目あるいは社会を支える科目群から定められている必要単位数 4 単位のみを取得する場合は、ヒトを見守る科目または社会を支える科目群から科目を選択し、実験あるいは実習を通じて実践的な能力を涵養することが望ましい。



## VI. 科目の履修

### 1. 科目登録・試験・成績

本プログラムが設置する科目は、所属研究科の授業科目と同様、学修支援システム DUET から登録します。必ず一般登録期間に科目登録を行うようにしてください。登録期間以外の登録は認められません。またこれらの副専攻プログラム科目の試験は、通常の学年暦にあわせて実施し、成績評価も通常の研究科科目同様に本学の GPA 制度にもとづきます。

以下の科目は、研究科の科目と同じ内容である為、重複して履修することができません。所属研究科の課程修了要件、本副専攻プログラムの修了要件を考慮して、どちらの科目コードで登録するかを決定してください。

副専攻プログラム科目名(科目コード)	研究科における科目名(研究科・科目コード)
プログラミング基礎 (35620622)	【生命】医療情報学特論 (31410120)
アルゴリズム基礎 (35620623)	【生命】生体情報アルゴリズム特論 (31420042)
多変量解析特別演習 (35620671)	【文情】多変量解析特別演習 (30806605)
ベイズ統計学特論 (35620672)	【文情】ベイズ統計学特論 (30840016)
調査法特別演習 I (35620653)	【文情】調査法特別演習 I (30806601)

### < 注意 >

- 副専攻プログラムの科目コード(356\*\*\*\*\*)で単位を修得した場合は、高等研究教育院設置科目として、その一部を所属研究科の課程修了単位に算入できる場合があります。算入できる上限は研究科・専攻毎に異なりますので、所属研究科の履修要項等を確認して下さい。
- 上表の科目について、所属研究科の科目コードで単位を修得した場合は、2科目4単位を上限として副専攻プログラムの修了単位に算入することができます。  
この点を考慮し、登録を行ってください。

※副専攻プログラムの科目登録は、各研究科にて定められている登録可能単位数の範囲内で行ってください。

## 2. 2022年度 開講科目一覧表

配当年次	M1～：前期課程1年次生から履修できる科目 M2～：前期課程2年次生から履修できる科目
校地	田：京田辺校地開講科目、今：今出川校地開講科目
集中講義	○：特定の曜日講時ではなく、集中的に講義が行われる科目
備考	ヒトを見守る科目および社会を支える科目について、IおよびIIに履修順序は無く、IあるいはIIどちらか一方のみの履修も可とする。

科目群	配当年次	科目	クラス	科目名	単位	担当者 (下線:主担当)	開講 校地	集中 講義	開講 期間	備考
高等 教養 科目	M1～	35620611	000	Comm 5.0 基礎知識論	2	新 茂之	田	—	春	
	M1～	35620612	000	Comm 5.0 文理融合論	2	新 茂之	田	—	秋	
	M1～	35620613	000	科学と良心	2	小原 克博 後藤 琢也 石川 正道 廣安 知之 和田 喜彦 櫻井 芳雄	田	—	春	※京田辺開講クラスと 同時開講
			今							
	M1～	35620614	000	心理環境科学特論	2	板倉 昭二 内山 伊知郎 櫻井 芳雄 元山 純 高橋 晋 加藤 正晴	田	—	秋	
	M1～	35620615	000	セルフアウェアネス (コーチング入門)	2	赤木 広紀 廣安 知之	田	—	秋	※京田辺開講クラスと 同時開講
			001				今			
M1～	35620616	000	論文リテラシー	2	2022年度休講	—	—	—		
AI・ デー タサイ エンス 科目	M1～	35620621	000	統計基礎	2	2022年度休講	—	—	—	
	M1～	35620622	000	プログラミング基礎	2	廣安 知之	田	—	春	生命医科学研究科科目 医療情報学特論 (31410120)に従開講
	M1～	35620623	000	アルゴリズム基礎	2	廣安 知之	田	—	秋	生命医科学研究科科目 生体情報アルゴリズム特 論 (31420042)に従開講
	M1～	35620624	000	データベース基礎	2	波多野 賢治	田	—	春	
	M1～	35620671	000	多変量解析特別演習	2	宿久 洋	田	—	春	文化情報学研究科科目 多変量解析特別演習 (30806605)に従開講
	M1～	35620672	000	ベイズ統計学特論	2	担当者未定	田	—	秋	文化情報学研究科科目 ベイズ統計学特論 (30840016)に従開講

科目群	配当年次	科目コード	クラス	科目名	単位	担当者 (下線:主担当)	開講 校地	集中 講義	開講 期間	備考
ヒトを見守る科目	M1～	35620631	000	ヒト脳機能計測実験Ⅰ	2	廣安 知之 日和 悟	田	○	春	
	M1～	35620632	000	ヒト脳機能計測実験Ⅱ	2	廣安 知之 日和 悟	田	○	秋	
	M1～	35620633	000	動物行動神経計測実験Ⅰ	2	飛龍 志津子 小林 耕太	田	○	春	
	M1～	35620634	000	動物行動神経計測実験Ⅱ	2	飛龍 志津子 小林 耕太	田	○	秋	
	M1～	35620635	000	生体化学情報計測実験Ⅰ	2	太田 哲男 大江 洋平	田	○	春	
	M1～	35620636	000	生体化学情報計測実験Ⅱ	2	太田 哲男 大江 洋平	田	○	秋	
社会を支える科目	M1～	35620641	000	複雑データ解析Ⅰ	2	宿久 洋	田	○	春	
	M1～	35620642	000	複雑データ解析Ⅱ	2	宿久 洋	田	○	秋	
	M1～	35620643	000	質的データ解析Ⅰ	2	鄭 躍軍	田	○	春	
	M1～	35620644	000	質的データ解析Ⅱ	2	鄭 躍軍	田	○	秋	
	M1～	35620647	000	マルチメディアデータベースⅠ	2	波多野 賢治	田	○	春	
	M1～	35620648	000	マルチメディアデータベースⅡ	2	波多野 賢治	田	○	秋	
	M1～	35620691	000	マテリアルズ・インフォマティクスⅠ	2	白川 善幸	田	○	春	
	M1～	35620692	000	マテリアルズ・インフォマティクスⅡ	2	白川 善幸	田	○	秋	
	M1～	35620693	000	モビリティネットワークシステムⅠ	2	佐藤 健哉	田	○	春	
	M1～	35620694	000	モビリティネットワークシステムⅡ	2	佐藤 健哉	田	○	秋	
	M1～	35620695	000	常識の共生知能システムⅠ	2	土屋 誠司	田	○	春	
	M1～	35620696	000	常識の共生知能システムⅡ	2	土屋 誠司	田	○	秋	
	M1～	35620697	000	知的自然言語処理Ⅰ	2	田村 晃裕	田	○	春	
	M1～	35620698	000	知的自然言語処理Ⅱ	2	田村 晃裕	田	○	秋	
	M1～	35620699	000	高信頼ネットワークⅠ	2	木村 共孝	田	○	春	
	M1～	35620700	000	高信頼ネットワークⅡ	2	木村 共孝	田	○	秋	

科目群	配当年次	科目コード	クラス	科目名	単位	担当者 (下線:主担当)	開講 校地	集中 講義	開講 期間	備考
社会に寄り添う科目	M1～	35620651	000	Comm 5.0 特別講義	2	廣安 知之 石川 正道 上浦 基	田	○	春	
	M1～	35620652	000	フューチャーデザイン演習	2	石川 正道 上浦 基	田	○	秋	
			001		2	田口 聡志	今	○	秋	
	M1～	35620653	000	調査法特別演習 I	2	鄭 躍軍	田	—	春	文化情報学研究科科目 調査法特別演習 I (30806601)に従開講
M1～	35620654	000	SDGs のための知的研究開発手法	2	後藤 琢也 石川 正道 小島 秀和	田	○	秋		
ミッション研究	M1～	35620661	001	ミッション研究 I	2	廣安 知之	田	○	秋	
			002			太田 哲男				
			003			大江 洋平				
			004			飛龍 志津子				
			005			小林 耕太				
			006			日和 悟				
			007			宿久 洋				
			008			鄭 躍軍				
			010			波多野 賢治				
			012			白川 善幸				
			013			佐藤 健哉				
			014			土屋 誠司				
			015			田村 晃裕				
	016	木村 共孝								
	M2～	35620681	001	ミッション研究 II	2	廣安 知之	田	○	春	
			002			太田 哲男				
			003			大江 洋平				
			004			飛龍 志津子				
			005			小林 耕太				
006			日和 悟							
007			宿久 洋							
008			鄭 躍軍							
010			波多野 賢治							
012			白川 善幸							
013			佐藤 健哉							
014			土屋 誠司							
015			田村 晃裕							
016	木村 共孝									

## 同志社大学大学院研究科横断副専攻プログラム

### 「Comm 5.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム」に関する内規

2020年4月 1日制定  
2021年3月11日改正  
2022年3月 3日改正

#### (趣旨)

第1条 この内規は、同志社大学高等研究教育院規程第2条第3項に基づき実施する研究科横断副専攻プログラム「Comm 5.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム」(以下「プログラム」という。)に関し、必要な事項を定める。

#### (人材養成目的)

第2条 Comm 5.0は、CommunicationとCommunityの有機的な融合的動態という社会のあり方を指している。次世代社会においては、ダイバーシティの十分な理解のもと、ヒトとモノ(技術やシステム)の相互作用による信頼と安全性を基軸に、イノベーション、ウェルビーイングを生み出すことが重要である。本プログラムは、ヒトとヒト、ヒトとモノの関係に介在していた分断を取り払う、CommunicationとCommunityの連続的な創造的運動を考察し、AIおよびデータサイエンスの先端的情報工学技術を用いて、Comm 5.0の構築に取り組むことができるComm 5.0アーキテクトの養成を目的とする。

#### (プログラムの編成等)

第3条 プログラムは、大学院学生が、所属の教育課程に加えて履修することができる教育課程として編成する。

2 プログラムの教育課程の編成方針は、別表のとおりとする。

3 プログラムの教育課程を編成する授業科目は、大学院学則別表Ⅱ高等研究教育院設置科目において定める。

#### (プログラムの履修)

第4条 プログラムを履修することのできる大学院学生及び履修方法は、当該学生の所属する研究科・専攻及び高等研究教育院の定めによる。

#### (実施組織等)

第5条 プログラムは、研究科・専攻及び高等研究教育院に所属する専任教員(以下「プログラム担当教員」という。)により実施する。

2 プログラムに、プログラムの実施を管掌するプログラム・コーディネーターを置く。

3 プログラムに、プログラムの企画、運営を管理するプログラム・オフィサーを置くことができる。

4 プログラム・コーディネーターは、高等研究教育院所長がプログラム担当教員の中から学長に推薦し、学長が委嘱する。

5 プログラム・オフィサーは、プログラム・コーディネーターがプログラム担当教員の中から委嘱する。

6 プログラムは、高等研究教育院委員会のもとに置くComm 5.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム委員会(以下「プログラム委員会」という。)が運営する。

7 プログラム委員会は、プログラム担当教員により構成し、プログラム・コーディネーターを委員長とする。

8 プログラム委員会が取り扱う事項については、別に定める。

#### (プログラム履修生)

第6条 プログラムが設置する授業科目を履修する大学院学生のうち、別に定めるプログラム履修志願書をもとにプログラム委員会で承認を得た者をプログラム履修生とする。

#### (プログラム修了判定及び認定)

第7条 プログラム委員会は、前条の規定に基づき、所定の単位を修得し、別に定める修了要件を満たした者に対してプログラム修了判定を行う。

2 学長は、前項の修了判定に合格した者に対して、プログラムの修了を認定する。

#### (修了証)

第8条 前条によりプログラムの修了を認定された者には、「Comm 5.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム」修了証を授与する。

(雑則)

第9条 この内規に定めるもののほか、プログラム実施に関し必要な事項は、プログラム委員会の審議を経て、プログラム・コーディネーターが決定する。

(事務)

第10条 この内規に関する事務は、高等研究教育院事務室が取り扱う。

(内規の改廃)

第11条 この内規の改廃は、高等研究教育院委員会及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、2022年4月1日から施行する。

別表

教育課程の編成方針

研究科横断副専攻プログラム「Comm 5.0-AI・データサイエンスプログラム」(以下「プログラム」という。)では、次代の社会を先導する人物を養成するために、次に掲げる能力を総合的・統合的に涵養する教育課程を編成する。

知識・技能

IoT、ビッグデータ等の先端的情報工学の知識・技能を習得すると共に、ヒトに関する知識、ヒトの生体情報を取得する知識を習得する。実験や実習を中心に行うことで、実践的な知識・技術の獲得を目指す。

思考力・判断力・表現力

文理融合的な視点で未来の技術の活用方法を考察する能力を習得する。今後出現すると予想される未来技術について議論し、来るべき社会のあり方をアクティブラーニングによる演習を中心に考察する。

主体性・多様性・協働性

プログラム担当教員とプログラムの連携機関が密接に連携して行う共同研究を大学院学生の鍛錬の場として設計する科目を開発し、主体的に研究を進める中で、今後の社会動向やニーズを自ら考える能力を涵養する。

## 【問合せ・連絡先】

同志社大学 高等研究教育院事務室

(今出川校地 致遠館 2F)

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

[TEL] 075-251-3259 / [FAX] 075-251-3152

[E-mail] [ji-ktken@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-ktken@mail.doshisha.ac.jp)

[WEB] <https://next.doshisha.ac.jp>

